

少し古い歌ですが、江戸後期の僧侶で九州・博多の聖福寺の仙厓和尚の作った「老人六歌仙」という歌があります。

まさにあつという間に過ぎていきます。おかげさまでお念仏の中に1年を過ごさせていただきました。

毎年のことですが、1月、2月、3月は「今年はどうなるのかな」と思っているうちに月日を過ごしており、私も僧侶はお盆を過ぎますと、次の9月、10月、11月、12月……と、

●お念仏を申して、苦しみ、悲しみに距離を置いてみる

本日は「御身拭式」(12月25日)でありました。この1年間の汗やほこり、ご苦勞を拭わせてもらう行事が先ほどありました。知恩院では江戸時代の慶安3(1650)年から続けられている歳末行事だそうです。こうした行事にお参りさせていただきますと、形だけでなく、心も清らかなるようになります。

今年には知恩院の第八十三世御門跡、岸信宏(げい)下(1889~1979年)の四十七回忌なのですが、岸下が御身拭式に詠まれたお歌に「我もまた己が心をぬぐうなり 祖師の御影ぬぐう年の瀬」とあります。このように、自分自身の心の汚れや煩悩を清めさせていただくという思いを込めて御身拭をおこなわせていただくわけです。

本日、お念仏にご縁をいただいたお集まりの皆さまも、今年1年間の自分自身を省みる機会として御身拭いを捉えることが大切でありましょう。私自身、1年間を振り返ればあつという間でしたが、皆さまはいかがでしょう。

毎年のことですが、1月、2月、3月は「今年はどうなるのかな」と思っているうちに月日を過ごしており、私も僧侶はお盆を過ぎますと、次の9月、10月、11月、12月……と、

法話

常 が 大 事

総本山知恩院布教師会 会長 安部隆瑞



2025年12月25日に開かれた「おとぎ文化講座」での法話の要旨を採録しました。



安部隆瑞 (あべ りゅうずい)

1956(昭和31)年、三重県生まれ。建中寺の村上賢瑞上人より得度を受く。大津市の滋賀教区西方寺住職。浄土宗総本山知恩院布教師会副会長を経て2024(令和6)年から会長。